

## 松之山の自然

第①位



**洗海川の源流**  
洗海川は長岡市で信濃川に合流するまで70km余りです。相崎・善光寺街道と深山城跡の近く、松之山中厚の奥が源流です。

第②位



**ブナ林417箇所とブナ条例指定10箇所**  
松之山地域はブナ林のメッカといってよい。林野の10%がブナ林なのは県内でも珍しい。約596haの松之山全域に点在しています。

第③位



**大松山からの展望**  
標高674.0mの眺めは四季折々の風景が楽しめます。遠く、魚沼三山、巻機山、米山、苗場山など眺望抜群で日本海も見えます。

第④位



**浦田からの大島街道**  
鼻毛の池へ通じる数百年前からの古道は、コケむした道、ブナ林のふかふかの道、森林浴を味わいながら歩ける癒しのコースです。

第⑤位



**コシジシモツケソウ・原標本産地**  
松之山の水梨地内で1950年、地元出身の栽培家岡田氏により採集されて、命名されました。

### 地域の宝物

松之山で、自然の恵みとしてありがたいものに、温泉、清水(湧き水)、山菜がある。金鉢の名水は、水道が普及する前、相当な昔から松口集落の人が汲みに行っていた。私は、今も汲みに行っていて検酌の水割りにしているけど、そんな話をすると都会の友人から賛辞って言われる。飲み水も、コンビニやスーパーで買う。そんな時代だけど、ここではそんなミネラルウォーターがあちこちにある。水、山菜、温泉は、人工的にはできない。この地域が持っている宝物。そういうものを大事にして暮らしていくのがここでの生き方だね。都市型の生活からみると、いろんな不自由さや不便さがあるけど、その反面都会では得られないものがたくさんある。

今、昔から培われてきた暮らしの技術や知恵を代々言い伝えていく生活がかなり変わってきている。おじいちゃん、おばあちゃんがいて、せがれや嫁さんに教えて、そしてせがれや嫁さんが子どもに教えて、とそんな機会が本当に少なくなった。農作業はもちろんだ。ちまき、機械織り(はたおり)、田舎料理、茶草、山菜など、暮らしに役立つことは、先人の時代から暮らしの中で見つけてきた知恵の積み重ね。自然が残っているだけではなく、その自然を暮らしに役立てる知恵も地域の大切な宝物なんです。



### エピソード



田舎体験のインストラクターをしていますが、今年から一般向けのプログラムも始まってね。春に東京から来られたご夫妻を榎田やブナ林に案内したら、「ばかやい!!」って言われて。暮らしのためにつくった榎田だけど、畔にウドや野の草花があって。それだけで感激するんだねえ。驚いたでも、当たり前風景の方っていうかね、それを実感したっけのう。昔は、雪国のあんなところによく住んでいるもんだとよく言われた。そんな隣の孤島であった松之山が、むしろそれだからこそ本物の自然も、昔からの衣食住の暮らしも残ってきたんだよね。見せかけの人工的な体験ではなくて、田舎でやってきたいろんな衣食住に関わる体験が見直されているっていうかな。また私たちがね、あらためて生きがい、暮らし方を見つめなおしてもいいかなあと、そう思うようになりました。

### 得意な分野

楽しく歩く植物の自然観察(きれいな花、おいしい山菜と果実、薬用や有用植物)、ネイチャーゲーム

### 支援内容

1. 季節の植物カレンダー
2. 植物マップづくり
3. 薬草と衣食住の関わり
4. 山菜の採り方と楽しみ方
5. ネイチャーゲーム「木の葉のカルタとり」他

本物の自然だすけ、一番の財産だこっつお!

名前

おぐち せいいち  
小口 成一

- 1941年 旧松之山村浦田口(十日町市松之山)の農家に生まれる。
- 1961年 旧松之山町職員となる。
- 1990年 「松之山自然友の会」設立メンバー。事務局として現在に至る。
- 1991年 (財)日本自然保護協会・自然観察指導員講習、横浜で修了。
- 1994年 (社)日本ネイチャーゲーム協会指導員講習、妙高高原で修了。
- 2002年 松之山町職員退職、越後田舎体験の自然観察インストラクターとなる。
- 2003年 東頸新聞「くびきの植物」連載開始。
- 2006年 「森林インストラクター」に合格。

プロ  
フィール